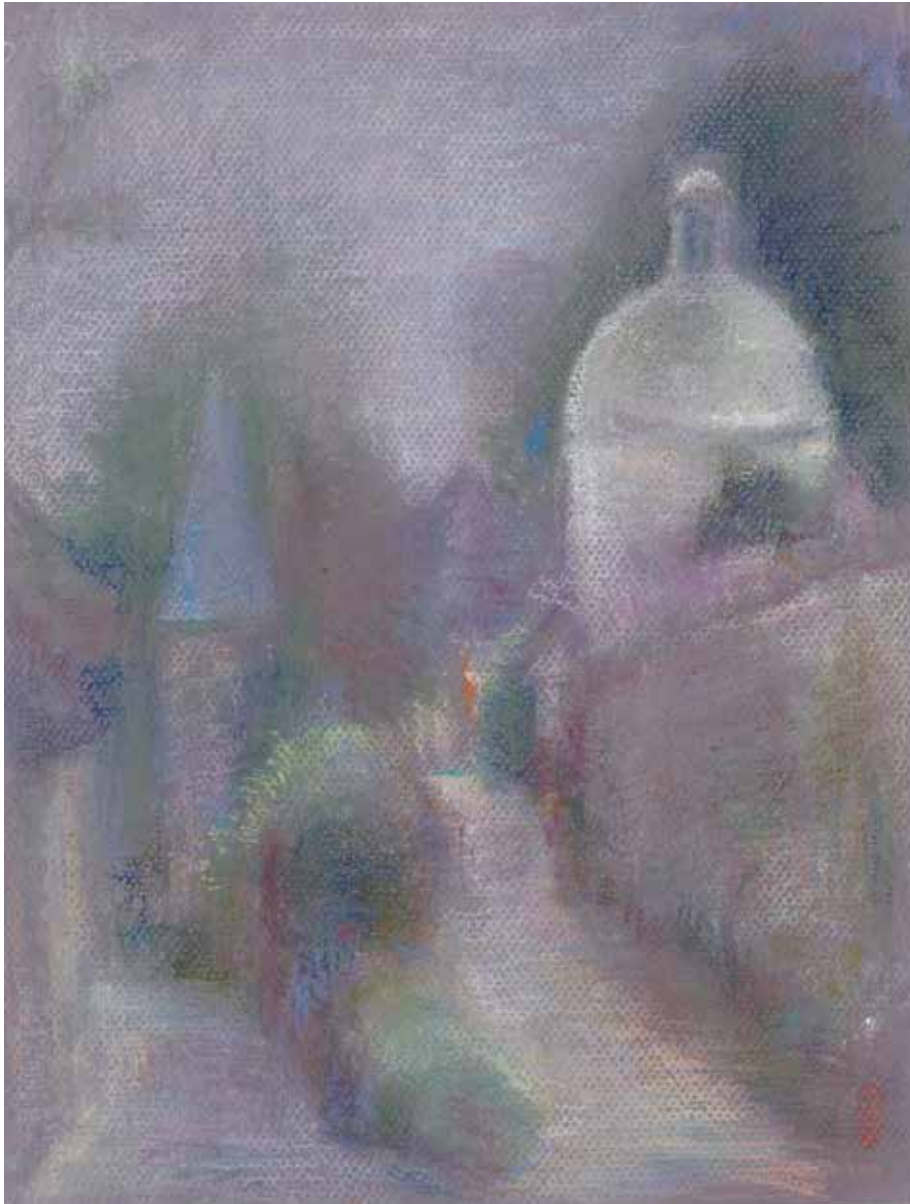


不二

中高版

6

2022



令和4年度第1回昇格・昇段試験課題発表

公益財団法人 日本書道教育学会

漢字半紙（誌友・準誌友＝月例課題
八段～五段＝昇格・昇段課題）

課題は段級別です。ご注意ください。

摩^ま
訶^か
不^ふ
思^し
議^ぎ

摩訶不思議

署名では姓名を記す

（解説は17ページ）

小久保嶺石先生書

八段～五段でご出品の方は、段位取得のため昇段試験受験料がかかります。詳しくは昇段試験出品要項をご覧ください。

漢字半紙（四段～初段＝昇段課題）

課題は段級別です。ご注意ください。

會津藩校
あいつはんこう

會津藩校

署名では姓名を記す

（解説は17ページ）

小久保嶺石先生書

四段～初段でご出品の方は、段位取得のため昇段試験受験料がかかります。詳しくは昇段試験出品要項をご覧ください。

1級からご出品の方は、段位取得のため昇段試験受験料がかかります。

漢字半紙（1級＝昇段課題
2級～10級＝月例課題）

詳しくは昇段試験出品要項をご覧ください。

課題は段級別です。ご注意ください。

猪いな苗わしろ代

代猪
苗田

署名では姓名を記す

（解説は17ページ）

小久保嶺石先生書

かな半紙 (誌友・準誌友＝月例課題 八段～五段＝昇格・昇段課題)

課題は段級別です。ご注意ください。

秀歌之體大略

(筆者) 近衛家熙 (一六六七～一七三六・江戸中期の能書家・号は予楽院)



をのつ可ら須、しくもある可夏ころも日毛ゆふくれの雨乃名残耳
『新古今和歌集』卷第三 夏歌 264 藤原清輔

(解説は18ページ)

短冊について

鎌倉末期頃より和歌をし
たためる書式として広まり
ました。横約6cm、縦約
36・5cmの大きさで全懐紙
をたてに八等分した大きさ
です。短冊には上下があり、
雲・霞形は広いほうが、濃
淡は濃いほうが、着色が異
なる場合には色の濃いほう
が上といったもので、練習
用紙ならば、糊付けされて
いる方が上になります。

書式

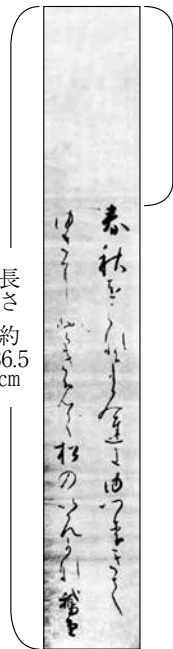
伝統的な書式

- 短冊の上部を1/3または1/4空け、歌を書き始める。
- 墨継ぎは和歌の場合、第一句・三句・五句で行う。
- 下部が詰まり過ぎないように、少し空けるとよいでしょう。
- 行間や、字粒にも気をつけ、作品として調和するよう心がけましょう。また最近では、このような伝統的な書式にこだわらず、自由に書くこともあります。

提出用紙—やや薄手の短冊練習用紙。

二つ折にて郵送できるもの。

余白 上部をおよそ1/4 (約9cm) またはおよそ1/3 (約12cm) 空ける



長さ 約36.5cm

幅 約6cm

八段～五段でご出品の方は、段位取得のため昇段試験受験料がかかります。詳しくは昇段試験出品要項をご覧ください。

かな半紙（四段～初段＝昇段課題）

課題は段級別です。ご注意ください。

あ
ら
さ
ら
む

こ
の
よ
の
ほ
可
能

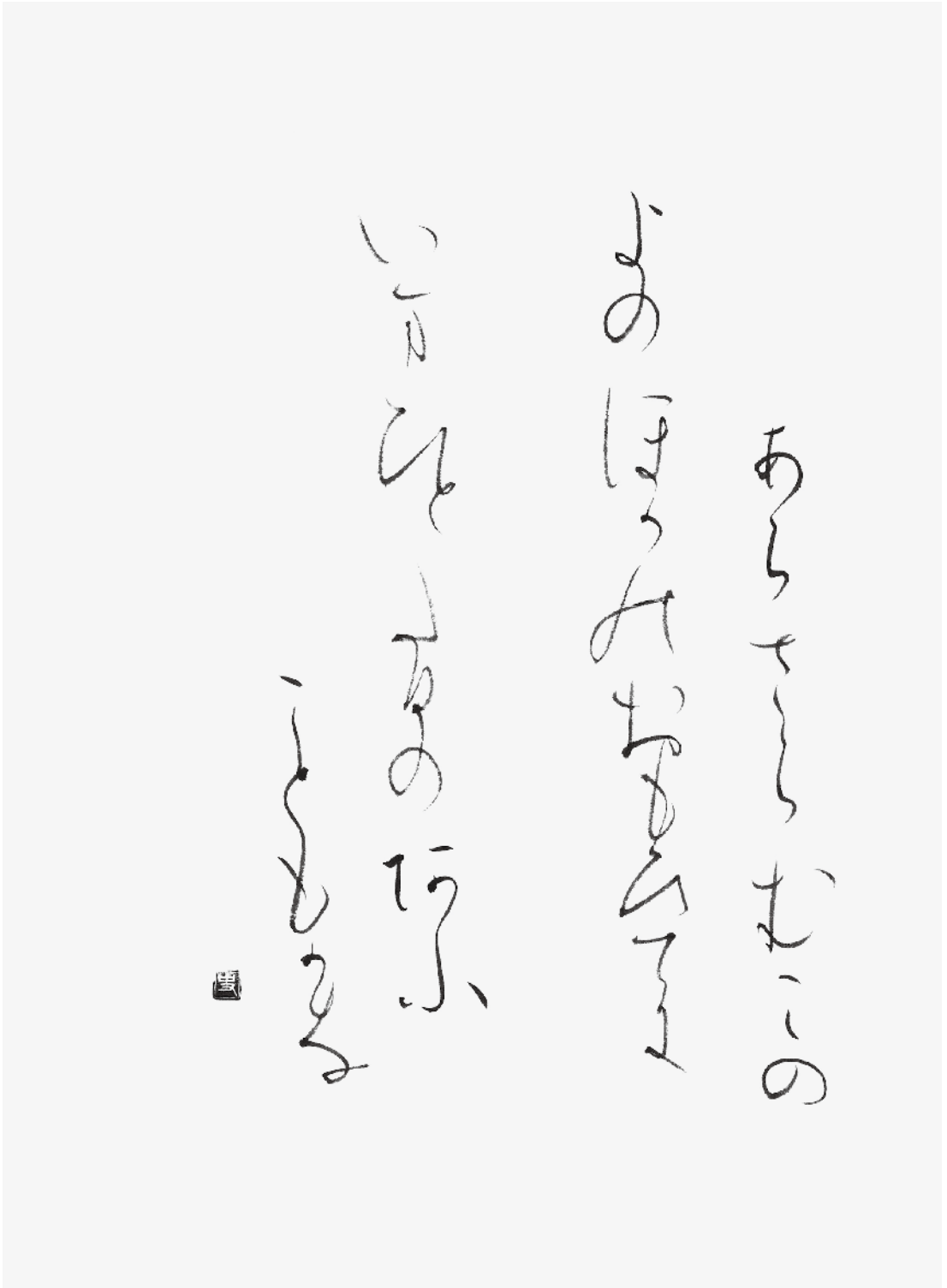
お
も
ひ
て
尔

い
万
ひ
と
多
日
の

阿
ふ
こ
と
も
可
奈

署名では姓名を記す

(解説は18ページ)



川島史子先生書

四段～初段でご出品の方は、段位取得のため昇段試験受験料がかかります。詳しくは昇段試験出品要項をご覧ください。

かな半紙 (1級=昇段課題
2級~10級=月例課題)

詳しくは昇段試験出品要項をご覧ください。

課題は段級別です。ご注意ください。

ゐのお久やま
けふこえてあ

ゐ
の
お
く
や
ま

け
ふ
こ
え
て
あ

署名では姓名を記す

(解説は19ページ)

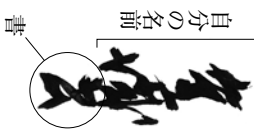
安東聖空書「梅雪かな帖」より

扁額の書をつくる(誌友)準誌友II月例課題
 (八段)初段II昇格・昇段課題)

(用紙 画仙紙半切込) 石橋鯉城先生書



※作品鑑別のため、作品下部に教室・氏名の鉛筆書きをしてください。



八段(初段)でご出品の方は、段位取得のため昇段試験受験料がかかります。詳しくは昇段試験出品要項をご覧ください。

書画・詩文などが雄々しく勢いがあること。堂々とした様。

課題 横額「雄渾」
ゆうこん

課題は段級別です。ご注意ください。

〈解説〉

書画の鑑賞に当たって、その作品を評価する文言に「雄渾」があります。その意味が示す「堂々としている」「勢いがある」だけを見ると、「太く大きく書かれた作品」を指すように思えますが、参考手本はどうでしょうか。余白も十分につけて揮毫されたこの堂々たる「雄渾」は、決して大きくはないですが、力感あふれ、見るものを圧倒させる印象を受けます。

さらに風格や気品があり、作者自身の人間性までも滲み出るような表現を「気韻生動(書品)」といいます。中高版ではこの書品を尊重して制作に臨んで欲しいと思います。

〈落款〉

〇〇書(扁額では〇〇題と書くこと)もあります)と書きます。雅印があれば押印してみましよう。

※20ページをご参照ください。

〈用具・用材〉
 筆 II 羊毫大筆
 墨 II 一味真
 紙 II 和画仙

月別出品券とバーコード出品券の貼り方

落款	教室名 段氏名 級
㊤	㊤ 月別出品券
㊦	㊦ バーコード出品券

漢字条幅

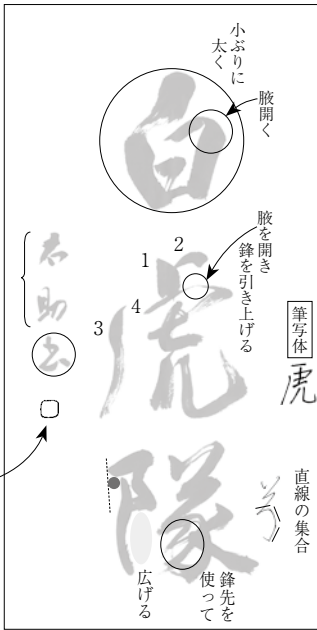
(1級Ⅱ昇段課題
2級Ⅴ10級Ⅱ月例課題)

課題は段級別です。
ご注意ください。

小久保嶺石先生書



(用紙 画仙紙半折1/2・たて68cm×よこ35cm)



びやっこたい
白虎隊

〔大意〕

戊辰戦争に参加した会津藩の少年隊。慶応四年(一八六八)三月、藩の軍制改革により組織。会津戦争で官軍に破れ、部隊は飯盛山で自決。

〔解説〕

- ・行書の基本的な書きぶりを学ぼう。
- ・半切二分の一という紙の大きさ、〇〇書(〇〇が書いた)という落款の書き方を学ぶ。
- ※落款・落成款識の略。書画作品を書いた後、署名捺印すること。署名だけ、押印だけを指すこともある。

白…1、2画目を繋げる。

2画目から3画目は線では繋がっていないが気持ち繋げて、3画目の起筆は鋒先で柔かく入筆する。

虎…虎頭の筆写体も覚えたいところだが、書いてみて常用体の方がしっくりきた。筆順に注意。4画目は

反らせてしなやかに。

隊…家の3画目は曲線ではなく、直線の集まりと考えて、方向や筆の面を変化させながら書く。

〔用具・用材〕

筆Ⅱ永昌条幅 墨Ⅱ和墨
紙Ⅱ中国画仙

※作品識別のため、作品下部に教室・氏名の鉛筆書きをしてください。

かな条幅

(誌友・準誌友Ⅱ月例課題
八段Ⅰ級Ⅱ昇格・昇段課題
2級Ⅲ10級Ⅱ月例課題)

須山万寿先生書



ふうりゅう はじめ
風流の八し免やお久能田うゑ歌

(用紙 画仙紙半折・たて 136 cm × よこ 35 cm)

〈読み〉 風流の初やおくの田植歌

〈作者〉 松尾芭蕉(一六四四〜一六九四)
伊賀国の生まれ。

〈大意〉

白河の関を越えて耳にした鄙びた陸奥の田植え歌、それが今度の旅で本格的な奥州路にはいつて最初に経験した風流であった。

〈解説〉

○最初の漢字二文字は風を小さく、偏と旁

のある流を少し大きく書くと自然の流れとなる。

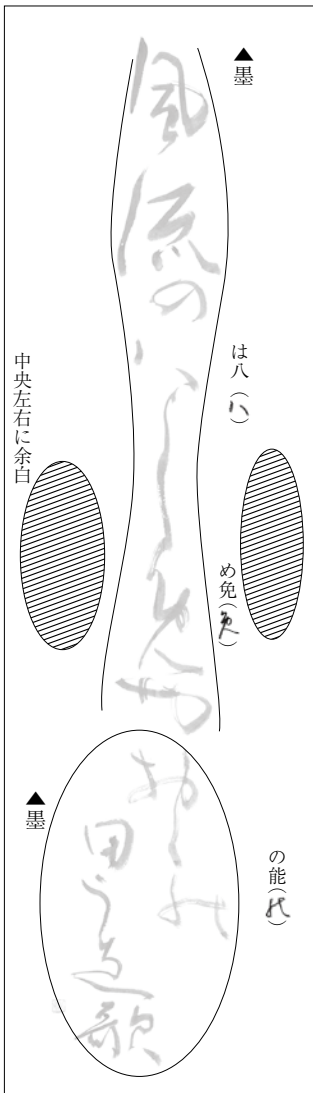
○中央に位置する「八し免」は連綿とし、速書にならぬよう特に「し」はゆっくり筆を運ぶと良い。

○下部の「おく能田うゑ歌」は一つのかたまりとなるよう「おく能」をや、右にずらすと二行目がうまくなります。

〈用具・用材〉

筆Ⅱ羊毛筆 墨Ⅱ和墨 紙Ⅱかな用加工紙

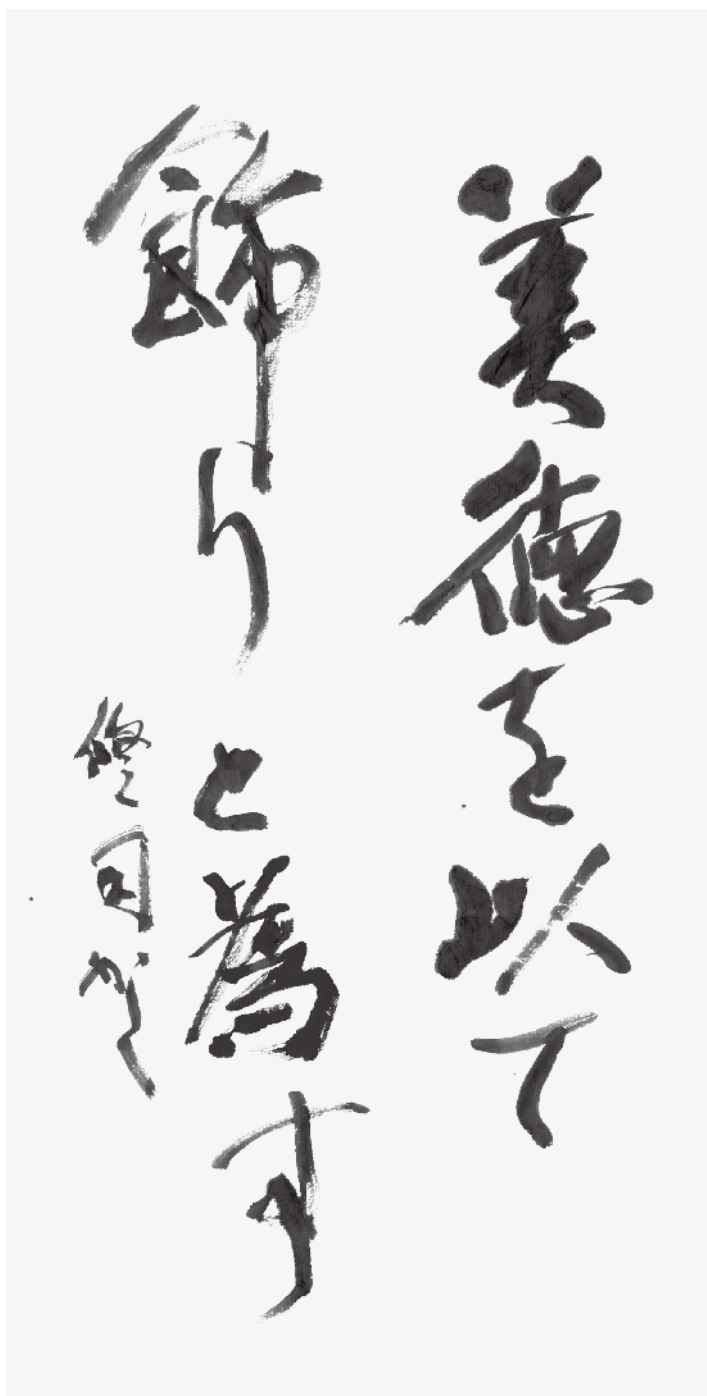
※作品識別のため、作品下部に教室・氏名の鉛筆書きをしてください。



新和様

(八段II月例課題
七段I初段II昇段課題)

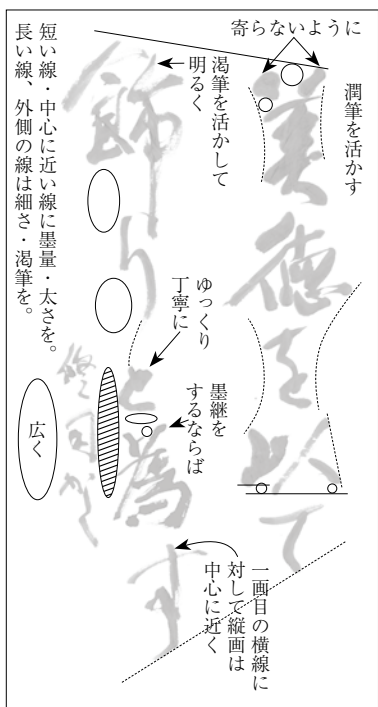
課題は段級別です。ご注意ください。



永井香樹先生書

(用紙 画仙紙半切1/2・たて68cm×よこ35cm)

※作品識別のため、作品下部に教室・氏名の鉛筆書きをしてください。



美徳を以て飾りと為す

〔作者〕 新島八重（会津出身）の言葉

〔大意〕

美しい内面を飾りとして生きる。外面より内面を磨くことが大事である。

〔解説〕

○文字の大小・長短、字幅の広狭の变化は、紙面を明るくする要素です。

○墨色の濃淡・潤濁、線の太細の变化は、更に作品に趣を表現する要

素です。

○コピーのように同じ作品を書くのではなく、書いた作品のどこを活かし、どこを改善するかと表現意識をもって楽しみながら書きましよう。新しい発見があるはずだ。

〔用具・用材〕

筆II 四号羊毛和筆

墨II 和墨 紙II 手漉漢字用和画仙

七段～初段でご出品の方は、段位取得のため昇段試験受験料がかかります。詳しくは昇段試験出品要項をご覧ください。

新 和 様 (1級=昇段課題
2級~10級=月例課題)

詳しくは昇段試験出品要項をご覧ください。

課題は段級別です。ご注意ください。

川底に蝌蚪の
大國ありにけり

川底に
蝌蚪の
大國ありにけり

署名では姓名を記す

(解説は19ページ)

(用紙 半紙)

石橋鯉城先生書

ペン（八段Ⅱ月例課題
七段Ⅰ初段Ⅱ昇段課題）

課題は段級別です。ご注意ください。

堀津節子先生書

猪苗代で生まれた野口英世は、主に細菌学の研究に従事し、アフリカで黄熱病の研究中に感染して亡くなった。

猪苗代で生まれた野口英世は、主に細菌学の研究に従事し、アフリカで黄熱病の研究中に感染して亡くなった。

〈用具〉 つけペン、万年筆またはデスクペン、ボールペン、インクは黒色

（鉛筆は不可）

〈用材〉 不二硬筆用紙3行書き

〈解説〉

The diagram illustrates the stroke order and direction for writing the text. It is divided into three vertical columns. The first column shows the text with stroke order numbers (1, 2) and arrows indicating the direction of the pen strokes. The second column shows the text with circles around specific characters and arrows indicating the direction of the pen strokes. The third column shows the text with circles around specific characters and arrows indicating the direction of the pen strokes. The text is written in a cursive style.

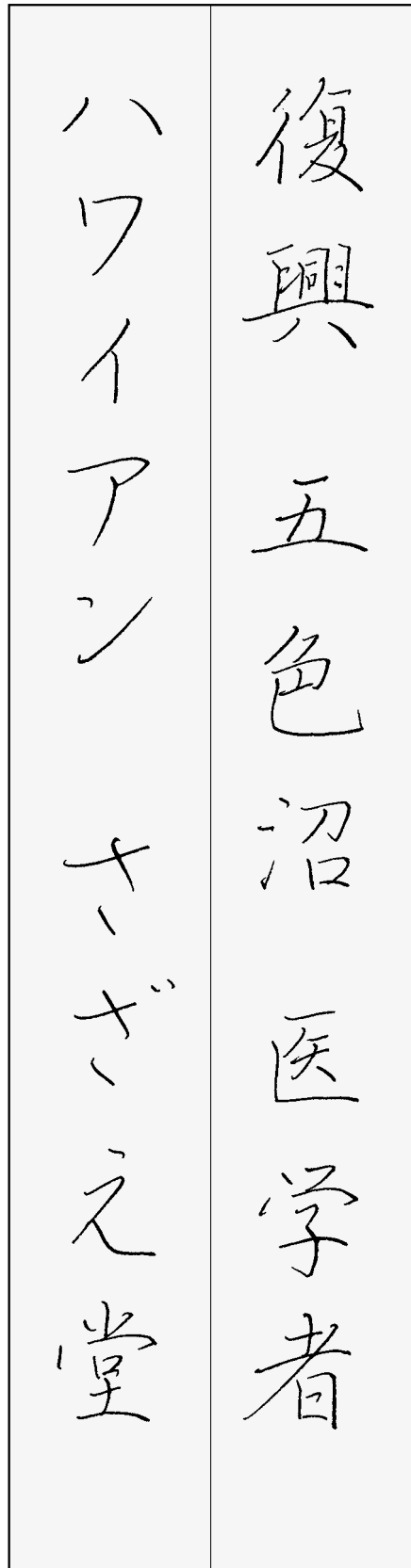
上の文字の取筆から※印まで一文字のように続ける

七段～初段でご出品の方は、段位取得のため昇段試験受験料がかかります。詳しくは昇段試験出品要項をご覧ください。

ペン（1級Ⅱ昇段課題
2級〜10級Ⅱ月例課題）

課題は段級別です。ご注意ください。

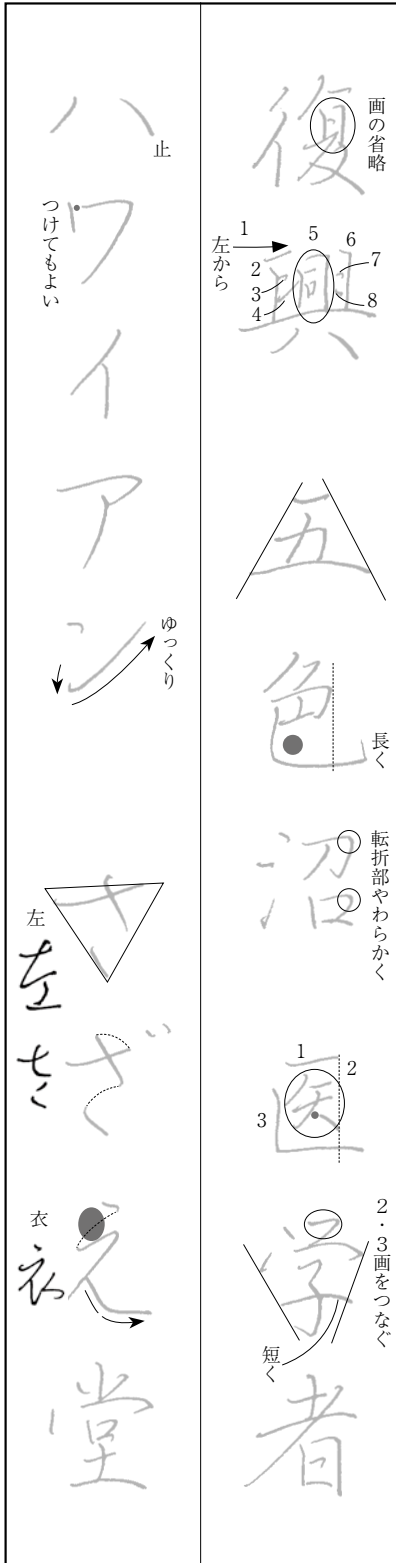
小島鳳治先生書



復興 五色沼 医学者
ハワイアン サーズエ堂

〈用具〉つけペン インクは黒色
(鉛筆は不可)
〈用材〉硬筆用紙2行書き

〈解説〉



〃一字書って面白いな〃 — 筆遣いと筆字の表現 — 運筆の極意に迫る

〃何かこの字への想を込めて書こう〃
オモイ

(随意課題)
段級に関わりなく出品できます。
評価は天と地になります。

〈平がな一字書〉(参考作品)

(用紙 半紙)



つ (この平がなの原字は「川」の草書形)

中高版では、運筆の極意に迫る。練習課題として一字書を学習していただきます。かな一字書とその原字(もとになる漢字)の漢字一字書を半紙に書きます。

さて、今月号は福島県を特集しています。福島県には阿武隈川という川があり、東北地方では北上川に次ぐ第2位、日本では第6位の二三九キロメートル、の長大な河川です。須賀川市と玉川村を流れる部分では、乙字ヶ滝(石河の滝)があり、松尾芭蕉が「五月雨は滝降りうづむ水かさ哉」と詠んだといわれています。

この「川」「つ」が今月のお題です。



〈漢字一字書〉(参考作品)

(用紙 半紙)



川 (読み) セン・かわ
(意味) わ。水の流れ。

かな一字書を見てみましょう。「川」の3つの画を思い起こしながら右へ筆を進め、阿武隈川の大きな隈(曲がり)の如く、湾曲させて左下方へ流します。横に長い概形を取るこの「つ」を縦長の半紙に収めるのは難しいですが、既成概念に捉われずに体を使った運筆にこだわって書いてみましょう。参考までに半紙を横にして書いたものも示します。

漢字一字書「川」は、せせらぎのように、或いは増水した急流のように、景色を思い描くことのできる「川」を表現してみましょう。ここでは、二本の筆を使って書いています。どんな風景が見えるでしょうか。雅印の位置、筆の大きさ、墨の色などにも考慮して制作してください。

〈用具・用材〉

筆 永昌四号と羊毛筆の二本 墨 濃墨 用紙 毛辺

石橋鯉城先生書

※作品識別のため、作品下部に教室・氏名の鉛筆書きをしてください。

ペン字での10分間練習法 ⑬ (随意課題)

不二	大熊	古殿	矢祭	会津美里	会津坂下	檜枝岐	桑折	須賀川	福島
	双葉	三春	塙	西郷	湯川	只見	国見	喜多方	会津若松
	浪江	小野	鮫川	泉崎	柳津	北塩原	川俣	二本松	郡山
	葛尾	広野	石川	中島	三島	磐梯	大玉	田村	いわき
	新地	榎葉	玉川	矢吹	金山	猪苗代	鏡石	伊達	白河
戸志	飯館	富岡	平田	棚倉	昭和		天栄	本宮	相馬
乃葉		川内	浅川				下郷		

教室名 →

氏名 →

(用紙) 原稿用紙20字×10行
 (用具) ボールペン つけペン 万年筆 デスクペン

※どの段級の方でも出品できます。
 「月別出品券」及び「バーコード出品券」を添付し出品してください。

福島県
 福島市 会津若松市 郡山市 いわき市
 白河市 相馬市 須賀川市 喜多方市
 二本松市 田村市 伊達市 本宮市
 (伊達郡) 桑折町 国見町 川俣町
 (安達郡) 大玉村
 (岩瀬郡) 鏡石町 天栄村
 (南会津郡) 下郷町 檜枝岐村 只見町
 (耶麻郡) 北塩原村 磐梯町
 猪苗代町 西会津町
 (河沼郡) 会津坂下町 湯川村 柳津町
 (大沼郡) 三島町 金山町 昭和村
 会津美里町
 (西白河郡) 西郷村 泉崎村 中島村
 矢吹村
 (東白川郡) 棚倉町 矢祭町 塙町 鮫川村
 (石川郡) 石川町 玉川村 平田村
 浅川町 古殿町
 (田村郡) 三春町 小野町
 (双葉郡) 広野町 榎葉町 富岡町 川内村
 大熊町 双葉町 浪江町 葛尾村
 (相馬郡) 新地町 飯館村

20字×10行の原稿用紙に書きます。
 まずは10分以内で書けるように練習してみましよう。10分書いても、指や手首が疲れないように書くことが大切です。

課題解説

漢字半紙（誼友〜五段）……………（2ページ）

摩訶不思議（まかふしぎ）

〔大意〕 飯盛山には「さざえ堂」という摩訶不思議なお堂がある。お堂の中は二重の螺旋状のスロープを組み合わせた構造になっていて、上りも下りも階段がなく、入口から出口まで一度通った所は二度通らない一方通行の建物になっている。

〔解説〕

○余白を設けて名前まで無理なく入る文字の大きさ、布置を学ぶ。

○基本的な行書の書き方を学ぶ。

摩…：筆は1画目の点の真下ではなく、やや右寄りに。

訶…：言偏は2画目を左に長く。3画目は単独で。4画目と口を繋げて書く。最終画は角度を大きく撥ねる。

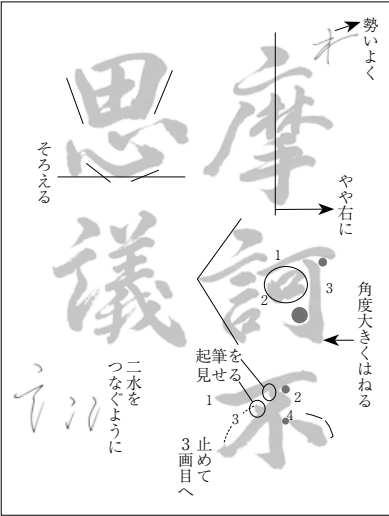
不…：2画目と3画目の起筆を見る。

思…：心の3・4画目の点は2画目の撥ねを跨ぐように。

議…：訶の言偏と形を変えている。

〔用具・用材〕

筆 永昌五号 墨 油煙和墨 紙 松雪



漢字半紙（四段〜初段）……………（3ページ）

會津藩校（あいづはんこう）

〔大意〕 会津藩が藩士の子弟を教育するために設立した学校で、日新館では白虎隊も学んだ。

〔解説〕

○行書の基本的な書きぶりを学ぶ。

○半紙に漢字四字をバランスよく収める。

會…：会の筆写体。「會」は本字。「ひとがしら」は2画目を少しずらして入り、ゆったりと払う。

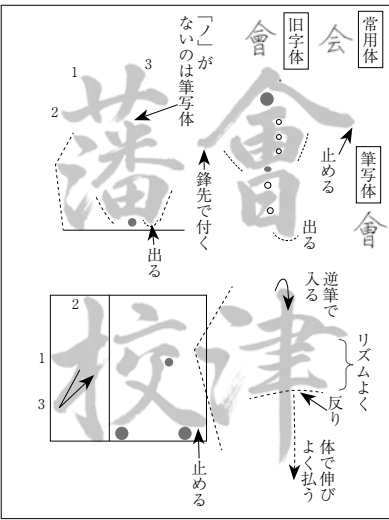
津…：三水と聿の組合せ。最終の縦画は逆筆で入り、体で伸びよく書く。

落…：草冠、三水、番の組合せ。草冠は縦画から書いたが、横画からでもよい。余白ができてスッキリまとまる。

校…：木偏と交の組合せ。木偏のくずし方を覚えよう。木偏を細身に書き、交はゆったりと。

〔用具・用材〕

筆 永昌四号 墨 油煙和墨 紙 松風



漢字半紙（1級〜10級）……………（4ページ）

猪苗代（いなわしろ）

〔大意〕 福島県の会津地方に位置し、耶麻郡に属する町。観光スポットとして磐梯山、猪苗代湖、五色沼等がある。

〔解説〕

○三文字を楷書でバランスよく書く。

○鋒先的位置を確認しながら、きりっとした書線で表現しよう。

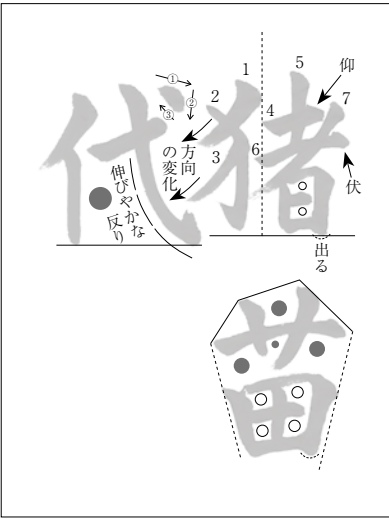
猪…：獸偏と者の組合せ。獸偏の1画目は寝かせ、3画目は立てるようにして払い、方向を変化させたい。

苗…：草冠と田の組合せ。草冠を幅広く書き、田は下をすぼめて引き締める。

代…：人偏と「弋」の組合せ。4画目は伸びやかに反りを入れて撥ね、最後の点は三拍子で収める。

〔用具・用材〕

筆 永昌四号 墨 油煙和墨 紙 松風



「秀歌之體大略」

解説 福原溪春先生

をのつ可ら須、し久もある可夏ころも日毛ゆふ久れの雨乃名残耳

〈読み〉おのづから涼しくもあるか夏衣
日も夕暮の雨のなごりに

〈大意〉おのづから涼しいことだ。夏着の紐も結ぶようになった夕暮れの雨の名残として。「日も夕」に「紐結ふ」を掛けている

〈解説〉

○行の流れを把握して書こう。

・中心軸からみて、下部は2行とも中心より右に流れている。

○墨色の变化に留意する。

・渴筆部は墨をしばらく出さずなつもりで、ゆっくり運筆する。「久もある可」「日毛ゆふ久れの」など。

○疎密の変化に留意する。

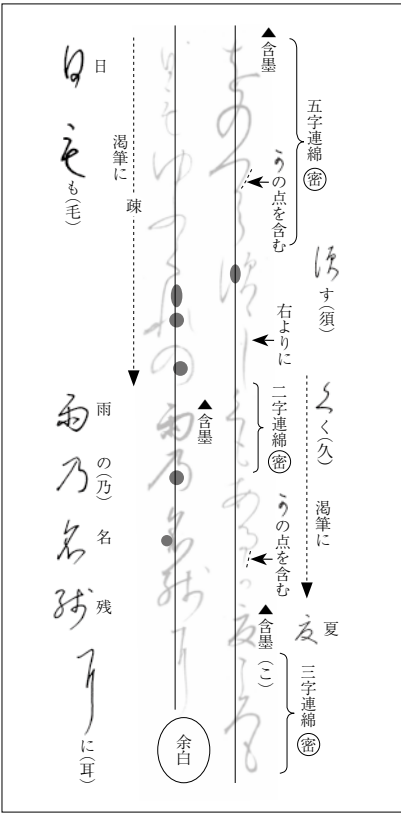
・「をのつ可ら」「久も」「ころも」は連綿線を短くして密につくる。

○変体仮名、連綿、漢字の草書（くずし方）を理解してから書こう。

・「つ」…「つ」の最後を延ばして「可」の1画目にする。「あふ」も同様。

・「夏、雨、名、残」の草書など。

○5ページの「短冊の書式」を理解して全体の構成を考える。



あらさらむこの世のほ可能おもひて尔い万ひと多日の阿ふことも可奈

〈読み〉あらざらんこの世のほかの思い出にいまひとたびのあうこともがな

〈大意〉死んで旅立つだろうあの世での思い出として、もう一度あなたとの逢瀬がもきたいものです。

〈解説〉

〈四行書きのアレンジ〉

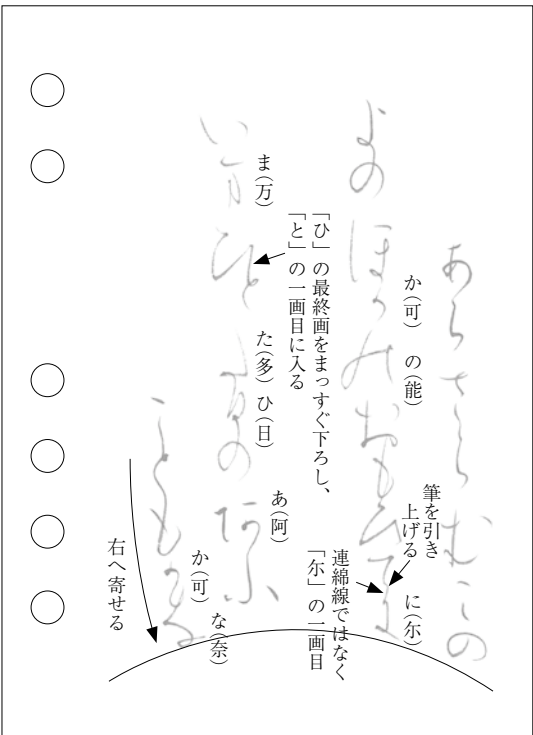
今月も先月に引き続き、基本の四行書きに少し変化を加えます。

○先月の形は、二・三行目の行脚が下がり、一・四行目の行脚が上がっていましたが、今月はその逆です。

○四行目の下部は右へ動かし、全体を安定させてまとめましょう。

〈用具・用材〉

筆Ⅱかな用小筆 紙Ⅱかな用半紙 墨Ⅱかな用和墨



※左はしには、教室名・氏名を入れます。

